

## 4. 訪問看護サービス利用のメリット

- ☆訪問看護を利用するメリットをまとめました
- ☆訪問看護の利用に迷うとき、活用してください
- ☆P20からの事例もご参照ください

ステーションによって体制や専門性に特徴があります。訪問看護ご利用の際に、管理者にご相談下さい。



### (1) 医学的根拠に基づいた判断と予後予測が可能です！

#### ①医療的視点での判断

- ◎訪問時の定期的な病状観察により、健康管理と共に病状変化への対応が速やかにできます
- ◎常に主治医と連携をとっているため、受診などのタイミングの判断が適切にでき、重度化を防ぐことができます
- ◎病気や障害を持って生活する利用者や介護者への精神的サポート（医療的側面による課題や不安を踏まえた）ができます

♪♪ 参考事例 ♪♪  
事例 1, 2, 3, 4, 6, 8, 10, 11, 13

#### ②予防・悪化防止

- ◎低栄養や寝たきりの利用者に対して、褥瘡や肺炎等の予防・早期発見・対応ができます
- ◎糖尿病で治療食や栄養管理の必要な利用者への栄養指導により、腎不全・脳血管疾患・失明等の合併症の予防ができます
- ◎嚥下に問題のある利用者への食事形態の工夫や嚥下訓練により、肺炎等の合併症予防ができます
- ◎慢性呼吸器疾患の利用者への呼吸訓練や生活指導により、呼吸機能低下や肺炎等の予防ができます
- ◎認知症等により薬が正しく服用できない利用者に対して服薬管理を行うことで、病気の悪化を予防し、病状の安定が得られます
- ◎難病や進行性疾患の利用者に対して病状の進行の予測ができるので、変化を踏まえた早めの対応が可能です

♪♪ 参考事例 ♪♪  
事例 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 11, 13,

### ③安全なケアや支援

- ◎利用者の全身状態の変化に応じて、安全にケアを提供できます  
→心不全や呼吸器疾患の利用者の入浴介助等
- ◎麻痺や病気からおこる利用者の身体状況に対して、個別性に応じた福祉用具の選定・セッティングを一緒に考えることができます

♪♪ 参考事例 ♪♪  
事例 3, 4, 7, 8, 12

### ④自立支援

- ◎機能回復の可能性の判断をしつつ、自立するためのケアを提供できます  
→自宅での入浴の仕方、自力での食事、Pトイレや自宅トイレでの排泄、日常生活の仕方、外出方法の工夫等
- ◎リハビリテーション導入の提案と共に、PT・OT・STの評価を元にリハビリテーションを継続的に実施できます
- ◎福祉用具導入の判断・利用効果の見極め・評価ができます

♪♪ 参考事例 ♪♪  
事例 1, 3, 4, 6, 13

## (2) 在宅生活における介護指導や環境整備を支援できます！

- ◎入院中に医療機関で行った療養指導、生活指導を在宅で継続できます
- ◎家族の介護状況や健康状態にも配慮し、生活全体を考えた介護指導、精神的な支援ができます
- ◎初めて介護を担う介護者への介護指導で、介護が上手にできるようになるための支援ができ、介護負担軽減につながると共に介護者の不安軽減も図れます
- ◎認知症の利用者家族が病気を理解し適切に介護できるよう、指導・支援することで、安定したケア体制が構築できます
- ◎24時間連絡体制を届け出ている訪問看護ステーションでは、夜間休日でも電話での相談や必要に応じた訪問看護を実施でき、利用者や介護者をサポートします
- ◎看護師の視点から利用者の状況変化を把握し、ケアマネジャーへ報告できるので、サービス見直しの時期を逃さず、再アセスメントの時期を掴みやすくなります

♪♪ 参考事例 ♪♪  
事例 3, 4, 7, 8, 9, 10, 11, 12

### (3) 在宅での看取りを支援します！

- ◎利用者や家族が望む生き方を全うできるように支援します
- ◎医療ニーズが高くなると共に介護者へのサポートが重要となる終末期において、主治医を中心としたチームケアの中で『看護の専門性』を発揮できます
  - 予後予測に基づいて、段階的に利用者や家族に看取りの準備教育をします
  - 苦痛を最小限にするケアを提供します（痛みの緩和・便秘対応・褥瘡予防・経口摂取困難への対応・安楽な介護方法等）
  - 家族への精神的支援やグリーフケア（看取り～看取り後のケア）
- ◎主治医と病状に合わせた連絡調整を行い、痛みなどの症状緩和や麻薬等の調整、必要時の医療処置への対応が速やかにできます
- ◎24時間連絡体制を届け出ている訪問看護ステーションでは、緊急時の電話相談と必要に応じた訪問看護を実施できるので、利用者や介護者の安心につながります

♪♪ 参考事例 ♪♪  
事例 8, 9, 10

### (4) 在宅で医療行為が実施できます！

- ◎退院直後に利用することで、介護者等が行う医療処置の手技や管理方法の確認ができ、安全に生活するための医療環境を整備することができます
- ◎必要な医療処置・医療的な管理・セルフケアへの指導が実施できます
  - ・人工肛門、膀胱留置カテーテル、膀胱瘻、腎瘻
  - ・経管栄養、胃瘻
  - ・褥瘡処置、創処置、軟膏処置
  - ・点滴、注射、中心静脈栄養（IVH）
  - ・気管カニューレ、吸引、吸入、人工呼吸器、在宅酸素
  - ・インシュリン
  - ・腹膜透析（CAPD）
- ◎主治医や医療機関との連携により、異常時や緊急時の対応が可能です



♪♪ 参考事例 ♪♪  
事例 1, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 13